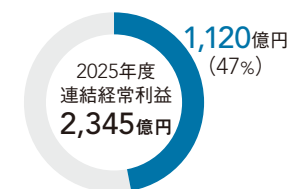


## ウェルスマネジメント戦略

ウェルスマネジメント部門の主な収益源は、国内の個人投資家および未上場会社のお客様の、資産管理に係るラップフィーや投信事務手数料を中心とした残高ベース収益や、運用に関する商品の販売手数料となっています。

### WM部門の経常利益



芹澤 潤一  
ウェルスマネジメント担当

2025年度のウェルスマネジメント部門は、経常利益が1,120億円、前年度比38.9%増と大きく伸長し、中期経営計画において2026年度の目標として掲げた水準を早期に達成しました。残高ベース収益は1,232億円、同収益による固定費カバー率は112%、総経費カバー率は73%となり、当社グループが推進してきた資産管理型ビジネスモデルへの転換は、着実に成果を上げています。

こうした成果の背景には、総資産コンサルティングを通じてお客様を深く理解し、資産全体を踏まえたポートフォリオ改善提案の質を高めてきたことがあります。今後も、これまでに培ってきたお客様理解と提案力を軸に、この総資産コンサルティングを一層深化させ、ウォレットシェアの飛躍的な向上を図ります。これにより、安定的かつ持続可能な収益成長を実現するとともに、お客様一人ひとりの資産形成・資産保全に一層貢献していきます。

### 主な構成会社

- 大和証券
- 大和ネクスト銀行
- 大和コネクト証券
- Fintertech
- リテラ・クリア証券

|                |          |
|----------------|----------|
| (大和証券)国内店舗数    | 182店舗    |
| (大和証券)残あり顧客口座数 | 3,277千口座 |
| (大和ネクスト銀行)預金残高 | 5.0兆円    |
| (大和ネクスト銀行)口座数  | 2,288千口座 |

### 環境認識

- ◆ インフレ圧力の高まり
- ◆ 長寿化による資産保全ニーズの高まり
- ◆ 今後想定されるデジタルネイティブ世代へのマネーシフトと、現在の若年層の投資経験不足
- ◆ 新技術を前提とした新たな投資商品・サービスの出現やそれを受けた規制の変更

### 事業リスク

- ◆ 市況の低迷でお客様の証券投資需要が低調となったり、リスク資産を保有することに対して消極的な傾向が強まったりすると、収益が大きく低下するリスク
- ◆ 店舗、営業員、オンライン取引システムなどを必要とするため、不動産関係費、人件費、システム投資などに係る減価償却費などの固定的経費を要するリスク
- ◆ 金融政策の変化などにより運用利鞘が縮小するリスク
- ◆ 競合するほかの銀行との差別化戦略が期待どおりに進まず収益力が伸び悩むリスク
- ◆ そのほか、銀行業の直面するリスクへの対応が不十分な場合に追加の費用が発生するリスク

### 強み

- ◆ 創業以降124年間で築き上げた182拠点の店舗網とお客様基盤
- ◆ 国内金融機関No.1のCFP取得者数
- ◆ お客様ニーズに応じた商品・サービスの開発・選定力
- ◆ 外国株式・債券やIPO、公募・売出しなど、他部門(GM&IB部門など)とのシナジー効果による商品提供力